

【取組内容①】 学習支援ソフトによる協働的な学びとAIドリルによる個別最適な学びの実現



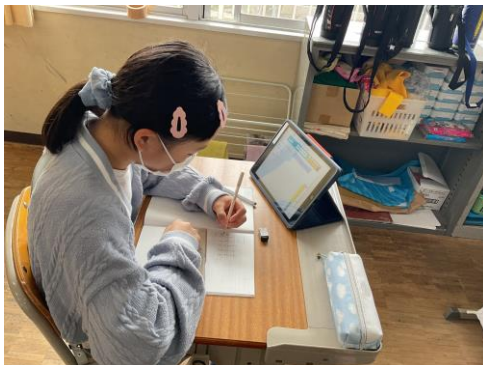
【学習支援ソフトを活用し、自力解決の結果を共有】

- ① 自力解決ができた順から提出箱に提出
- ② 自力解決ができた児童は、他の児童の自力解決の結果を見て、自分の考えと比較
- ③ 自力解決が難しい児童も、提出されたものを参考にし、自分の考えを提出



【比較・検討場面で、ペアやグループでの話し合い】

- ① 学習支援ソフトや教科書等を使ってペアやグループで話し合いを実施
- ② 互いの考えの根拠を示しながら協働学習を実施
- ③ その結果を学習支援ソフトで提出



【授業の終末でのAIドリルの活用】

- ① 特に算数科の習熟の時間にAIドリルを活用
- ② 一人一人の理解度に合った演習問題が出題される
- ③ 教師の管理画面で一人一人の進捗状況をチェック

【取組内容③】 AIドリルと認知機能強化トレーニングアプリの導入による家庭学習の充実



【朝の学習でのAIドリルの活用】

- ① 週2回、朝の10分間でAIドリルを実施
- ② AIドリルで問題が解けない根本的な原因を自動で見つけ出す
- ③ 分かりやすいレクチャーで弱点を復習



【認知機能強化のためのツールの導入】

- ① 認知機能強化のためのツールを保護者の了承を得て使用開始
- ② 児童が休み時間や家庭学習等で活用
- ③ 楽しく、ゲーム感覚で取り組める内容なので、積極的に活用



【家庭学習での活用】

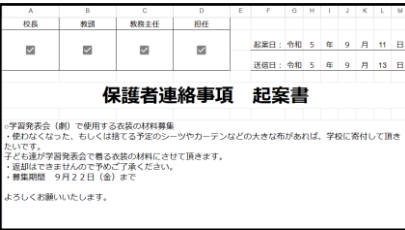
- ① タブレットの持ち帰りを常時実施
- ② AIドリルを宿題として活用
- ③ 認知機能強化のためのツールも家庭で活用することを周知し実施

【取組内容④】 クラウド環境を活用した情報共有の効率化



【家庭への連絡を効率化】

- ① クラウド環境を活用し紙での連絡を削減
- ② 学校・学級の情報は主にホームページで
- ③ 必要に応じて個人宛に依頼文書も送付
- ④ 献立表や学校からの通知文書をPDFで送付



【保護者との情報共有の効率化】

- ① 保護者連絡の起案書を紙からクラウド環境を活用したデジタル申請に変更
- ② 管理職等がチェックし、起案が通ったら担当者がクラウド環境を活用して保護者に通知



【職員間の情報共有の効率化】

- ① 職員会議の提案文書もクラウド環境を活用し、情報を一元化
- ② タブレットやスマートフォン等で随時確認可能

【出欠連絡の効率化】

- ① 児童の欠席連絡をオンラインで実施 → 全職員で閲覧可能
- ② 登校できない児童にオンライン授業の実施 → 出席扱いに



【各ツールへのの入り口を一元化】

- 各ツールへの入り口を一つにまとめ、リンクを張ることによって、PCやタブレットからアクセスできるサイトを作成
それぞれツールを開くより、このサイトから直接アクセス → 効率化を実現

